

## J R西日本・企業体質の一新を Vol. 3

# ゾウに向うアリ

## 高見運転士と同じ区間を乗務する運転士が 「安全にこだわって行動を…」と手紙

### 定時運行優先 変わらぬ体質

### J R社員からの手紙

運転士 匿名

運転経験は20年以上になります。福知山線事故から1年、会社もいろいろな取り組みをしてきました。「これを見てく  
ださい、こんなに変わったんですよ」と言いたいところですが、残念ながら胸を晴れるものはないと思います。

安全を考えなければいけないのは会社の経営陣だと思います。幹部とわれわれが話し合う安全ミーティングも行われて  
いますが、形だけのようになります。

会社は、事故原因について運転士一人に責任を押し付けているかのようです。精神論を説くばかりで具体論がない。会  
社に対する不安感はぬぐえません。

懲罰的な「日勤教育」はなくなったといいますが、特急列車を駅でオーバーランさせた運転士が、その路線の乗務から  
外されたと聞きました。列車を止めるなどミスしたらペナルティーという、安全よりも定時運行を優先させる体質は変わ  
っていないのです。そうした体質が、福知山線事故に結びついたのではなかったのか。

こんなこともありました。若い運転士が軽いミスをし、係長が報告を受けていた。そこで運転士が言い訳をすると、近  
くにいた助役が「現認しろ」と一喝した。「現認」とは「処分対象だぞ」という宣言です。係長に、今の口答えをチェッ  
クしておけ、と事実上命じたわけです。

穏やかな態度になった幹部でも腹の中は違う。結局、「反省しとるんかいな」と思ってしまう。

私は福知山線や東西線、片町線の乗務が中心の電車区に所属しています。事故当日も乗務しており、約一時間半前に現  
場のマンション前を通過しました。片町線のある駅の詰め所で休憩していたところ、一斉放送で事故を知りました。しか  
し、詳しい内容が分からない。詰め所にテレビがないからです。正確な情報が伝えられないばかりでなく、テレビもない  
現場で、どう行動しろというのでしょうか。

しばらくして、同僚からの電話で事故の大きさを知りました。乗務を終わり、組合事務所に到着した午後になってから、  
ようやく現場の映像をテレビで見ました。「あのカーブなら(事故を)やるな」と直感で思いました。スピードを要求する  
雰囲気があり、速度が落ちず、カーブに入ったと推測できました。

二日間の休日を挟んで乗務に復帰しましたが、運転室の後ろに集まるお客様を見て、責任の重さを感じました。同志社  
前駅に行くのがつらかった。同志社大の学生も何人が犠牲になっていましたから。いたたまれない気持ちになりました。

最近、職場に「4月25日を迎えるにあたっての留意点について」という張り紙が掲示されました。心掛けや身だしなみ、  
執務態度などを書き連ねています。「社員にそう指導する前に、やることあるんじゃないか」と思ったりします。

「社員に警告 出勤遅延発生」との張り紙も出ました。遅刻した社員をやり玉に挙げる掲示です。一種の見せしめです  
が、こうしたものはこの1年なかった。「のどもと過ぎれば…」という感覚に思えます。

我々現場の運転手という「アリ」が、会社という「ゾウ」に立ち向かうようですが、私たち一人ひとりが安全にこだわ  
っていくことを、行動で示すしかない。職場の雰囲気は変わらないかもしれませんが、少しでも安全を根付かせるために、  
現場で働くベテランが行動で示していきたいと思えます。

(おわり)